

もつと本を読め。本には昔の人のりっぱな教えが書いてある。そのりっぱな考えを身につけてこそ、りっぱな武士となれるのだ。計算などは商人のすることだ。商人のように金もうけをするなど、武士の恥だ。武士は、たとえ暮らしは貧しくとも、りっぱな考えをもつて国を治めなければならない。そのためにもつと本を読みなさい。」

豊助の将来を心配した父は、何度も豊助を呼んで注意しました。しかし、豊助はそうは考えません。

「武士が国のためにつくすのはいいが、人と同じことをやっているとだめだ。人のやらないこと、人ができないことをやって、国のためにつくすことも大切ではないのだろうか。」

人のやらない方法で身を立てる——これが豊助の考えでした。

豊助の計算は、簡単なものから、だんだんむずかしいものへと進んでいきま